

## 計画段階評価対応方針

### 【ダム事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき政策目標	複数案との比較	対策方針
筑後川水系佐田川における治水対策  九州地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年7月の九州北部豪雨では、筑後川右岸の支川において甚大な被害が発生し、これまで河川・砂防事業を合わせた災害復旧等を進めている。</li> <li>・支川佐田川では、寺内ダムの貯水位が大幅に低下していたことにより被害の発生を回避したが、治水対策の実施を強く求められている。</li> <li>・平成29年7月九州北部豪雨でのダム地点流入量に対して寺内ダムの洪水調節容量が大きく不足している。その際、水位は全川の計画高水位を超えており、河道の流下能力が大きく不足している。</li> <li>・仮に、寺内ダムの貯水位が平常時最高水位の状況であった場合、異常洪水時防災操作に移行し、佐田川の水位は全川の計画高水位を超過する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐田川の治水安全度向上(平成29年7月九州北部豪雨の状況も踏まえて必要と考えられる治水安全度を確保し、平成29年7月洪水と同規模の洪水に対して、被害の防止又は軽減を図る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治水対策の治水目標を達成するための複数の治水対策案を立案した。</li> <li>・具体的な達成目標が達成可能で、佐田川で現状において適用可能な方策であるかの観点で概略評価を行い、対策案を抽出。</li> <li>・河川整備計画変更案に位置付けられている堤防整備、河道掘削を実施することを前提条件とし、複数の対策による組合せ案を検討し、実現性・コスト面から有利となる4案を抽出して、7つの評価軸(「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」)について評価した。</li> </ul> <p>(案1)河道掘削＋堤防のかさ上げ 河道掘削及び堤防のかさ上げにより、河積を確保する案</p> <p>(案2)堤防のかさ上げ 堤防のかさ上げ等により、河積を確保する案</p> <p>(案3)遊水地＋河道掘削＋堤防のかさ上げ 遊水地の建設により洪水調節を行い、河道掘削、堤防のかさ上げを案1より減じた案</p> <p>(案4)寺内ダムの有効活用(容量振替等) 既設ダムの有効活用により洪水調節機能向上等を図る案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4案のうち、コスト面で「(案4)寺内ダムの有効活用」が最も有利で、次に「(案2)堤防のかさ上げ」が有利である。(案4)はいずれの評価項目においても(案2)に比べ同等又は優れているため、(案4)による対策が妥当。</li> </ul>